

## 令和三年度

### 学校推薦型選抜・社会人選抜入学試験 小論文

#### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は表紙を含めないで2ページあります。解答用紙は3枚です。下書き用紙は1枚あります。  
試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 試験開始の合図があつたら、まず、すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
- 4 解答はすべて解答用紙のそれぞれの解答欄に記入してください。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 解答用紙は記入の有無にかかわらず、持ち帰ってはいけません。
- 7 この問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

## I

僕は、学ぶ目的のひとつは、「どついたら自由になれるか」ということではないかと思っています。

「幸せになるため」という回答も悪くはないけれど、①バクセンとすすぎているような気がします。「少しでも自由になるために学ぶ」というほうが、たぶん理解しやすいでしょう。

たとえば、この山を越えたところには、別の村があつて、そこでは、いろいろな果物が豊かに実っているらしい。そういう話を伝え聞いても、昔は山に道がなかったので、そこへ行くことができませんでした。

「この二〇〇〇メートルを超える山を、どうやって越えていけばいいのか」「途中で迷ったら、戻つて来られないかもしれない」。そう考えて行動に移せない時代が長かったのです。

でも、長い歴史の中で、先人たちが少しずつ先鞭せんべんを付け、山を越える道を見つけていきます。獣の通り道をたどつて、新たな道を見つけたりもします。そして、ある道を歩いていったら、確実に向こうの村に行けることがわかるようになります。

人々はいままで狭い世界の中に閉じ込められていたけれども、その道を知ったことによつて、新天地での生活を②イトナむ可能性を手に入れたのです。さらに、目的に応じて、いろんなところにも出かけられるようになっていきます。

これは(A)、人間が「自由になる」ということです。何も知らなければ、今の生活の枠から一步も外に出られないけれど、いろいろな知識を手に入れるにつれて、行動範囲が広がっていきます。

「こちらの道のほうが楽に行ける」とか「これを使ったほうがおいしいものが手に入る」とか、「生で食べたら毒にあたつて死んでしまうけど、こういうふう調理すれば安全に食べられる」とか。

毎日ひもじい思いをしていたけれども、知識を得ることで、生活がぐんと楽になる。そういうことが起こるわけです。

もうひとつ、例をあげましょう。赤ちゃんは、成長の③カテイでスプーンやフォーク、お箸の持ち方を学びます。手づかみだと熱いものは食べられないけれど、それらを使えば、ある程度熱いものでも食べられるし、手も汚れなくて済みます。

お箸を持つ練習をしたら、食事をするうえでの「自由」が手に入れられるわけです。もちろん手づかみで食べてもいいけれど、お箸も使えるようになれば、食べるときの選択肢が増えるからです。

## II

学びをまた別の角度からとらえると、困ったときに臨機応変に処理できる力を養う、というふうにも言えるでしょう。

自然・社会が変化すると、持ち合わせの知識では通用しないようなことが起こります。たとえば、これまででのやり方で作物を育てていたけれども、日照りが続いて、ほとんど作物がとれなくなってしまう

た。そういうことは、これまでの歴史の中で、多くの人々が経験してきたはずです。

そのとき、ある種の危機管理能力・臨機応変力を持っている人は、新しい④サイバイ方法を試してみるとか、今までとは違った作物を育ててみるとか、少しの⑤シユウカクでもたくさんの方が食べられるような料理を考えると、いろんな知恵を使って乗り越えることができたはずですよ。

学ぶというのは、既存の知識を頭の中に刷り込んでおくことだけに留まらず、そのときに起こる問題に対して、⑥デキカクかつ臨機応変に対処していくことです。そこでは決まった答えなんてないから、自分でつくり出していかなければなりません。学びの中では、そういう訓練をしていくことも、とても大事なことです。

学校の理科の時間に、さまざまな実験をしたいと思います。授業では、実験結果がわかりきっていることをやるので、あれは本来の実験とは言えないですね。実験というのは本来、まだ答えが見つからないもの、ことに対して行うものです。ひとつの条件を変えたとき、どのようなデータが出てくるのかを観察するといふときもそうです。自分なりにいろいろの⑦シヨウサクゴしながら、答えを探し出していく。これが実験の重要な目的のひとつです。

生活の中で、何か困ったことが出てきたとします。たとえば、「うちの母ちゃん、入院しちゃったんだよ。どうやってご飯をつくらうかな」というとき、どう切り抜けていくか。そこで自分なりに考えて、料理をつくってみる。何度かつくっているうちに、「考えて工夫すれば何とかなるんだな」ということがわかってくるでしょう。そこで得た自信が、その後の生きる力になっていくわけです。

そういう意味では、いっぱい失敗したほうがいい。うまくいかないという体験は、臨機応変力を⑧キタえます。勉強でも、部活でも、何でもそうです。失敗したこと自体が、ひとつの大きな学びになります。そういうふうにとらえる視点を、ぜひ大切にしてください。

(汐見稔幸『人生を豊かにする学び方』より)

問一 傍線部①～⑧のカタカナを漢字になおしなさい。

問二 Ⅰの(A)に入れる最もふさわしい一語を、次の記号の中から選びなさい。

ア. また      イ. しかし      ウ. たしかに      エ. ときに      オ. つまり

問三 Ⅰで筆者が伝えたいことを一〇〇字以内で述べなさい。

問四 Ⅱを二〇〇字以内で要約しなさい。

問五 Ⅱの二重線部の筆者の見解について、あなたはどのように思いますか。自分の体験や具体例をもとに四〇〇字以内で述べなさい。